

平成27年度 国立江田島青少年交流の家教育事業

教員免許状更新講習「授業づくりに活かせる体験活動」 ～海が学校！海が先生！～ 実施報告書

【趣 旨】 小学校教員等が体験活動の意義について理解するとともに、「海」を中心とした基本的な体験活動指導技術を実習を通して身に付ける。また、学習指導要領における体験活動の取扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に体験活動を取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

【主 催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家

【期 日】 平成27年12月25日（金）～12月27日（日） 2泊3日

【会 場】 国立江田島青少年交流の家

【対 象】 平成28年3月31日及び平成29年3月31日が最初の修了確認期限の者で以下に該当する者。

小学校・特別支援学校（小学部）に教員として勤務している者

小学校・特別支援学校（小学部）教員として任命・雇用される見込みのある者
（非常勤リストに登録していること・採用内定がされていること等）

小学校・特別支援学校（小学部）教員勤務経験者

その他の校種の者（養護教諭・栄養教諭は除く）も、本講習に興味がある場合は受講できる。

【参加者数】 15人

【講 師】 広島大学大学院教育学研究科 教授 林 孝
広島大学大学院教育学研究科 准教授 曾余田 浩史
江田島市教育委員会学校教育課
大柿自然環境体験学習交流館 館長 西原 直久

【企画・運営のポイント】

（1）教員の体験を豊かにする

教員自らが自然体験活動等を行うことにより、体験活動の意義や教育的効果を体感できるようにする。そのために、江田島の「海」を活用した「海辺の生き物観察と指導法」や「カッター研修」を行ったり、「野外炊事」を行ったりする。

（2）「体験と知識を結びつけるプログラム」で研修効果を高める

人間関係づくりに始まり、体験活動、それを踏まえての講義・内容のまとめという流れを作り、体験と知識を結びつけながら理解を深められるようにする。

（3）宿泊研修で受講者（教員）間のネットワークを築く

受講者（教員）が児童・生徒の宿泊研修と同じように寝食を共にし、学び合い・語り合うことで、教員間のネットワークを築くことができるようにする。最初の「レクリエーションの意義と指導方法」の実習でアイスブレイクを体験することで緊張を解き、その後の活動や交流を活発に行えるようにする。

【活動の実際】

(1) 内容 「教科指導，生徒指導その他の教育の充実に関する事項」（選択18時間分）

- ①〔講義〕教育の課題に関する理解 (1.5h) 広島大学大学院教育学研究科 准教授 曾余田 浩史
(内容) 教育の現状と今日的な課題に関する講義
- ②〔講義〕体験活動に関する理解 (2.0h) 広島大学大学院教育学研究科 教授 林 孝
(内容) 体験活動の意義や学習指導要領における「体験活動」の位置づけに関する講義
- ③〔実習・講義〕体験活動に関する技能の習得
 - ア〔実習・講義〕カッター研修 (2.0h) 国立江田島青少年交流の家 企画指導専門職 杉原 直樹
(内容) カッター研修の教育的効果に関する実習・講義
 - イ〔実習〕野外炊事 (2.5h) 国立江田島青少年交流の家 企画指導専門職 杉原 直樹
(内容) 宿泊活動でよく行われる「野外炊事」の基礎的な技術を習得する実習
(かまどづくり・炊事・安全指導など)
 - ウ〔実習・講義〕海辺の生き物観察と指導法 (6.0h)
江田島市教育委員会学校教育課
大柿自然環境体験学習交流館 館長 西原 直久
(内容) 海辺の生き物の観察及び採集を行い，実物体験の意味と指導法を理解する実習・講義
 - エ〔実習〕レクリエーションの意義と指導方法 (2.5h)
国立江田島青少年交流の家企画指導専門職 小早川 崇
(内容) 子供同士の関係を円滑にするためのレクリエーションの意義と指導法を学ぶ。
- ④ 履修認定試験 (1.5h)

(2) 日程

【1日目】

	10:00	11:00	12:00	13:00	15:00	15:30	19:00	19:30	21:00	22:30	
		ガイ開講 ダンス	講義・実習 レクリエーションの 意義と指導方法 (1.0h)	昼食 休憩	講義・実習 体験活動に関する 技能の習得 【カッター研修】 (2.0h)	休憩	講義・実習 体験活動に関する技能の習得 【野外炊事】 (3.5h) *食事・休憩(1.0h)を含む	休憩	講義・実習 レクリエーションの 意義と指導方法 (1.5h)	休憩 入浴 就寝準備	就寝

【2日目】

	7:10	7:50	9:00	12:00	13:30	16:30	17:00	17:30	18:30	20:30	22:30
朝の つどい	朝食 休憩		講義・実習 海辺の生き物観察と 指導法 (3.0h)	昼食 休憩	講義・実習 海辺の生き物観察と 指導法 (3.0h)	休憩 夕べの つどい	休憩		夕食 (情報交流会)	休憩 入浴 就寝準備	就寝

【3日目】

	7:10	7:40	8:40	10:40	11:00	12:30	13:30	15:00	15:30	16:00
朝の つどい	朝食 休憩	講義 体験活動に関する 理解 (2.0h)	休憩	講義 教育の課題に 関する理解 (1.5h)	昼食 休憩	履修認定試験 (1.5h)	退所 準備	閉講 式	解散	

(3) 活動の様子



レクリエーションの意義と指導方法



カッター研修



海辺の生き物観察と指導法

【成果】

- 教員自らが自然体験活動を行うことにより，子供の目線，指導者の目線で体験活動の意義や教育的効果を体感することができた。
- 1日目，2日目の実習で体験した学びを3日目の講義で整理することができた。
- プログラムの最初にアイスブレイクを取り入れたことで参加者同士の距離が近くなり，和

やかな雰囲気の中で講習を進めることができた。「最初にレクを体験して、雰囲気が和んでよかった。」という記述がアンケートにも見られた。

- 実習の場面では、目的を意識させるようにした。「『目的』の大切さを改めて感じた。」という感想も見られ、体験活動における目的の重要性についての理解を深めるという効果が感じられた。
- 実習を多く取り入れたことで、参加者は体験的に学ぶことができた。「子供の立場も経験することができ、こんな気持ちになるのだなと実感することができた。」という感想も見られた。

【今後の課題】

- 潮汐よりプログラムの流れを優先し、2日目にすべて「海辺の生き物観察と指導法」を設定した。潮汐の関係で広い範囲での活動ができなかった。(海岸での活動は2日目の午後より1日目の午後のほうがよかった。) 潮汐やプログラムの流れ等、何を優先するかによってプログラムを構成していく。